

第35回 口腔機能って何だろう？

＝「認知症の方」の食事「困りごと」と対処法について＝

(その10)

北九州在宅医療・介護塾
塾長 久保 哲郎

先月に引き続いて「食事で困っていること」をテーマにして、その対応策についてご紹介します。

Q-1：食べ物を前にして食べない。

●脱水状態(脱水症状)になっているのかもしれませんが。脱水状態になると意識レベルがさがることがあるため、ボーッとしていたり、話し掛けても応えなかったり、食事を目の前にしていても、それが何か分かっていないことがあります。このような状態にならないためには、日ごろからこまめに水分をとるようにしてください。1日に必要な量は前回記載したように1～1.5ℓ(料理以外の水分量)といわれています。

また、むせやすい方にはゼリーで固めたり、トロミをつけてはどうでしょうか？

また、むせやすい方にはゼリーで固めたり、

トロミをつけてみてはどうでしょうか？そして、しっかりと排尿されているかどうかの確認も必要です。

●「手づかみ食」を試してみてもどう

でしょうか。目の前にある食べ物を手で持つことは、見る(視覚)、指先の触覚(体性感覚)、臭い(嗅覚)、味わう(味覚)などの感覚が脳を刺激することで覚醒を引き起こし、食べることへの意欲が甦ってくる場合があります。小さな“おにぎり”や“サンドイッチ”など、手づかみできる料理を試みてはどうでしょうか。

但し、大きな“おにぎり”や“サンドイッチ”などは、誤嚥や窒息が起こることがありますので、サイズは小さく、一口サイズ程度が良いようです。

口から食べる幸せを実現する支援技術具体例(その1)

1. 食欲をきたしている原因について身体審査を多面的に行う。
2. 好物だけを食べてもらう。
3. 現在服用している薬剤を見直す。
4. 嗜好品(コーヒー、炭酸水、チョコレート、たくあん、卵かけごはん、他)の提供を試みる。
5. 空腹感を持てる時間を確保し、その時間に食べられる環境を確保する。
6. 経管栄養から経口摂取への移行を試みる。

(口から食べる幸せをサポートする包括的スキル 小山珠美)より